

ご挨拶

首都圏で農学系学部を有する私立五大学（玉川・東海・明治・東京農業・日本）は、産官連携によるアグリビジネス創出を目指して、2005年度より毎年「アグリビジネスフォーラム」を開催して参りました。

第9回目になる今回も、より多くの取り組みをご覧いただけるように、『アグリビジネス創出フェア2013』に共同出展という形で開催いたします。

食と農を取り巻く諸事情が、多様に変化する中で、『農学』の重要性が改めて見直されています。五大学が農学という共通の土台の上で、将来を見据えて連携し、どのような取り組みを行っているかについて、各大学の研究成果の発表・展示を通してご紹介いたします。

新たなシーズの発見、情報交換、交流の場として、お気軽にご来場いただきますよう、ご案内申し上げます。

第9回 アグリビジネスフォーラム

日時：2013年10月23日（水）～25日（金）

10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト 東6ホール
小間番号：生-506～508
生-606～608

入場料：無料

東京ビッグサイトへのアクセス



りんかい線

「大崎駅」・「新木場駅」から「国際展示場駅」下車。徒歩約7分。

ゆりかもめ

「新橋駅」・「豊洲駅」から「国際展示場正門駅」下車。徒歩約3分。

都営バス

「東京駅」八重洲口から東16系統「東京ビッグサイト」（約40分）。
「浜松町駅」から虹01系統「東京ビッグサイト」「国際展示場駅」（約40分）。
「門前仲町駅」から海01系統「東京ビッグサイト」（約30分）。

水上バス

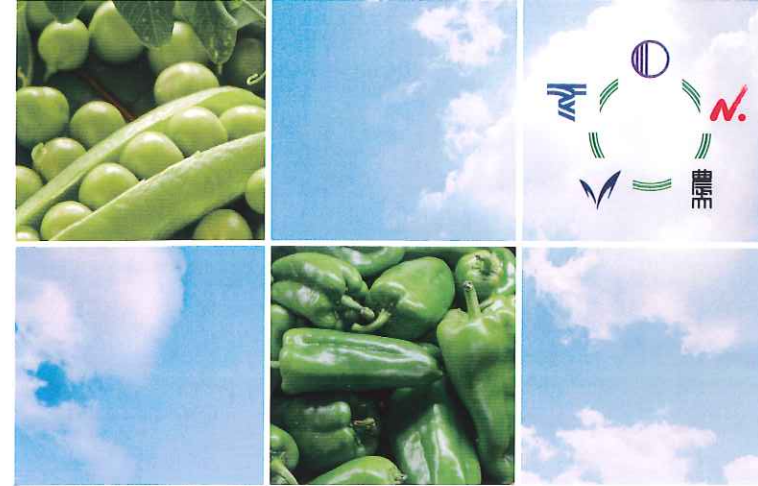
「浜松町駅」下車、水上バス「日の出桟橋」から、
「有明客船ターミナル」（約25分）。下船。徒歩約2分。

車

首都高速湾岸線「有明出口」から約5分、
11号台場線「台場出口」から約5分。

各大学のお問い合わせ先

	玉川大学（幹事校） 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 学術研究所知的財産本部 TEL:042-739-8054 FAX:042-739-8663
	東海大学 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1 産官学連携センター 産官学連携推進課 TEL:0463-59-4364 FAX:0463-58-1812
	明治大学 〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 研究推進部生田研究知財事務室 TEL:044-934-7637 FAX:044-934-7917
	東京農業大学 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 総合研究所 TEL:03-5477-2532 FAX:03-5477-2634
	日本大学 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 研究推進部知財課 TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328



未来の食と農を支える首都圏農学系私立五大学

第9回

アグリビジネスフォーラム

～アグリビジネスフォーラム in アグリビジネス創出フェア2013～

2013年 **10.23**水 → **25**金 10:00～17:00

会場

東京ビッグサイト 東6ホール
アグリビジネス創出フェア2013会場内



研究・開発プレゼンテーション

日時：10月24日(木) 14:30~16:50
会場：プレゼンルーム C

14:30~14:50

未来の食と農を支える首都圏農学系 私立五大学

玉川大学 学術研究所
所長 今村 順

14:50~15:10

地下海水を利用した 都市近郊での陸上養殖

東海大学 海洋学部水産学科 生物生産学専攻
教授 秋山 信彦

15:20~15:40

ヤマイモの滋養強壯を 科学する

東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科
教授 志和地 弘信

15:40~16:00

有機物分解バイオを用いた 微生物燃料電池に関する研究

日本大学 生物資源科学部 生物環境工学科
准教授 内ヶ崎 万蔵

16:10~16:30

ICT養液土耕栽培支援システム 「ZeRo.agri」

明治大学 農場
特任教授 小沢 聖

16:30~16:50

微生物遺伝資源の利用、 その実例と成果

玉川大学 大学院 農学研究科
教授 奥田 徹

アグリビジネスフォーラム in アグリビジネス 創出フェア2013

未来の食と農を支える 首都圏農学系私立五大学



明治大学・東京農業大学・日本大学・玉川大学・東海大学は、首都圏で農学系の学部を有する私立大学として、農学に関する研究・教育を始め、その成果を社会に還元するために活動をしています。2005年から「アグリビジネスフォーラム」を開催し、各大学の特色ある研究成果をご紹介して参りました。

第9回目の今年度は、「未来の食と農を支える」というテーマでの各大学の産学連携や特色ある研究成果をご紹介させていただきます。

(小間番号：生-507)

玉川大学

微生物遺伝資源の利用、 その実例と成果



我々と(株)ハイファジェネシスは、遺伝資源として菌類を収集・利用しています。現在、菌株22,000株、培養抽出物41,000に達し、バイオ産業に貢献しつつあります。

医薬候補物質：神奈川県委託事業を行い、新規抗がん剤を発見、本年度経産省グローバル技術連携支援事業にトップ採択、現在開発研究に着手。化成品生産プロセス改良：経産省委託事業で、微生物を用いた酒石酸製造法を改良、現在実施企業を模索。刈草処理：横浜市委託事業で、新規リグニン分解菌特許を申請、某企業と、ゴルフ場芝草処理のフィールド試験中。

(小間番号：生-506)

東海大学

地下海水を利用した 都市近郊での陸上養殖



海面を利用した小割養殖は、生産量が多い一方で、天候による作業の制約や、漁業権によって一般企業が参入しにくい養殖方法です。一方、陸上養殖の場合には、天候や漁業権の問題は解決できませんが、冬季や夏季の水温変化が大きく、飼育可能な魚種が限定されます。そのような中、地下海水は年間を通じて温度が一定で、無酸素のために一般細菌が皆無です。そこで、本講演では、この地下海水を利用した陸上養殖について紹介いたします。

(小間番号：生-508)

明治大学

ICT養液土耕栽培支援システム 「ZeRo.agri」



日本の農業における、後継者が少ない、規模拡大が進まない等の問題の原因のひとつは、栽培管理を経験と勘に頼り、数値化を追求してこなかったことにあります。

そこで、数値管理の導入が比較的容易なハウスの養液土耕栽培をターゲットにして、ICTを利用した養液土耕栽培支援システム「ZeRo.agri」を産学共同で開発しました。

本プレゼンテーションでは、「ZeRo.agri」の制御ロジック、特長、今後の展望等をご紹介します。

(小間番号：生-606)

東京農業大学

ヤマイモの滋養強壯を 科学する



ヤマイモはヤマノイモ科の食用種の総称であり、日本のナガイモやジネンジョもヤマイモの一種であります。また、ヤマイモは古来より滋養強壯により作物といわれています。

世界のヤマイモの生産量は約5000万トンあり、様々な種、品種がありますが、滋養強壯(機能性)についてはほとんど知られていません。

少しずつ明らかになった、ヤマイモのパワーを報告します。

(小間番号：生-608)

日本大学

有機物分解バイオを用いた 微生物燃料電池に関する研究



次世代型バイオエネルギー回収プロセスとして期待される微生物燃料電池(Microbial Fuel Cell, MFC)は、バイオマスのエネルギーを生物化学的変換により直接電気エネルギーとして回収するバイオリクターです。微生物燃料電池には、高いエネルギー回収率、常温運転が可能で、生成されるガスが二酸化炭素であるといったメリットがあります。食品廃棄物の中には有機物など、現在の技術では利用が難しいエネルギー源が多量に眠っています。本研究では、有機物分解共生細菌を用いた微生物燃料電池の発電効率試験を行いました。

(小間番号：生-607)